

# 平成20年度 学校評価報告書

高砂市立曾根小学校

## 学校教育目標

意欲をもって学び、互いに認め合う児童の育成  
 ・自分も人も大切にする子 ・よく考え、自ら学ぶ子 ・健康で元気な子

## 本年度の学校重点目標

(1) 自他の命と人権を大切にし、共生の心を育む教育を充実させる。  
 (2) 基礎基本の定着と学ぶ意欲を育成し、確かな学力を高める。  
 (3) 学校・家庭・地域が連携し、子どもたちの「生きる力」を育む。  
 (4) 保・幼・小・中により深い交流・連携を推進する。

## 自己評価方法の適切さ

○自己評価の方法については、下記のような工夫が見られ、概ね適切である。  
 ・学校評価アンケートの回答者である児童、教師、保護者の評価項目を関連させて達成状況を検証している。  
 ・自己評価の観点を高砂市の共通項目及び自校の独自項目により示している。  
 ・総合的な自己評価において、課題を明確化しできるだけ具体的なものにしようと努めている。  
 ○下記の2点について留意することで今後の学校評価が更に適切なものになり、学校教育活動に生かされることを願う。  
 ・評価の観点の達成状況が4段階で評価されるが、それぞれの評価項目について十分に分析するとともに、回答者(児童・教師・保護者)の評価についてもその傾向等を把握し、課題を明確にしたい。  
 ・改善の方策はより具体的にすることが望ましい。

自己評価結果 (A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない)

評価の観点	評価項目	達成状況	改善の方策
組織運営	○組織(チーム)としての指導の実践 ○保護者や地域に信頼される教育活動 ○学校評価の推進	概ね達成	・学校教育目標の具現化のため、学年会の充実を図る ・教育活動を公開するとともに、積極的に情報交換を行う ・学校運営の実情を把握し、成果と課題を明確にする
危機管理体制	○実践的な研修・訓練の実施 ○家庭・地域・関係機関との連携	達成	・研修・訓練を実施した後の評価を行い、今後を生かす ・引き渡し訓練の実施等により家庭との危機管理能力を高める
教職員の資質向上	○実践的指導力の向上 ○学校の課題の共有	概ね達成	・実践的指導力を高めるため、校内研修を充実させる。 ・学力分析報告会や生徒指導部会等の活性化を図る
生徒指導	○支持的風土のある学級集団づくり ○内面理解を図る指導と教育相談の充実 ○指導体制の確立と家庭・関係機関との連携	概ね達成	・規範意識を高める好ましい人間関係を構築することに努める ・児童及び保護者との信頼関係を確立する ・家庭や関係機関との連携を更に深めていく
確かな学力	○学習指導の工夫 ○学習規律及び学習習慣の育成 ○落ち着いて学べる学習環境づくり	概ね達成	・児童の学習意欲を引き出す授業を展開する ・互いに認め合い、温かい雰囲気のある学級づくりを進める ・家庭学習を通して家庭との連携を促進する
道徳教育	○全教育活動の中での道徳性の育成 ○「道徳の時間」の指導の工夫	概ね達成	・教育活動のあらゆる場面で、児童の道徳性の育成に努める ・道徳の授業の工夫し、指導方法を改善し行う
人権教育	○教職員の人権意識の見直し ○児童の自尊感情の育成	概ね達成	・児童理解、児童指導の視点から人権意識の醸成を図る ・教師や児童相互のかかわりを通して自尊感情を培う指導を図る
体育・保健指導	○運動への意欲、体力・運動能力の向上 ○心と体の健康に関する指導の充実 ○食育の推進	概ね達成	・児童の興味関心を引くような指導方法の工夫・改善を図る ・保健意識と実践力の向上を図る ・食に関する正しい知識を持たせ教科と関連させた指導を進める
特別支援教育	○個々の課題を明確にした指導計画の作成 ○指導方法、指導体制の工夫改善 ○教職員研修の充実	概ね達成	・年間個別指導計画をもとに、職員間の情報の共有を図る ・特別支援教育委員会をもとに、指導方法の工夫改善を図る ・関係機関と連携した研修を充実させる
体験活動	○体験活動による道徳性・社会性の育成 ○体験活動を生かした学習指導の構想 ○地域や企業等と連携した多様な活動の実施	達成	・道徳性・社会性を育成する活動を見直す ・学ぶことの楽しさを体得させ意欲的な態度の育成する ・地域や企業と連携し、各学年に応じた体験活動を行う

評価の観点	評価項目	達成状況	改善の方策
言語活動	○読書活動の推進 ○言語環境の整備	概ね達成	・朝の読書活動を活かし、家庭での読書習慣の定着を図る ・言葉遊び、詩などの掲示を継続し言語環境を整える
校種間連携の強化	○連携体制の確立 ○学びの連続性を踏まえた指導	概ね達成	・校区連絡会議を中心に児童・職員交流の推進を図る ・保幼小中体験授業と指導における情報交換を更に進めていく

自己評価の適切さ
○教職員が本年度の学校教育重点目標の具現化に向けて、課題を共有し校務を的確かつ効率的に遂行している。また、保護者や地域社会、関係機関等との連携に努めている。それぞれの評価の観点については、下記のことに留意して、組織的に取り組んでいただきたい。
・組織運営……保護者や地域に信頼される教育活動については、学校教育目標を保護者等に知らせるとともにこれまで同様に教育活動を積極的に公開してほしい。
・危機管理体制……「達成している」という評価であるが、緊急事態に対応できるよう更に徹底してほしい。
・生徒指導……全国的に児童の規範意識が低下していると言われていたが、児童の内面理解を図りながら愛情をもって、「ほめて育てる」指導をしてほしい。
・確かな学力……家庭学習の促進については保護者の評価が低い傾向にあり、ゲームやテレビの普及で読書習慣等もつけにくくなっているが、学校から情報発信していくことが求められている。
・道徳教育……児童の道徳性の育成に努め、長期的に「曾根っ子」のことにしてもらいたい。
・体育・保健指導……本校は、比較的外で遊ぶ児童が多いが、個人差があるようにも思う。運動面・健康面の指導は今後とも充実させてほしい。
・特別支援教育……一人一人の児童を大切に、適切な関わりができるように指導していただいているが、更なる工夫改善に努め、保護者への啓発も必要である。
・校種間連携の強化……「オープンスクールの案内」等、中学校区で連携した取組も見られる。今後も評価や課題についても共有していくことが望まれる。
※「改善の方策」については、次年度から早急に取り組むべきものと長期的に取り組んでいくべきものがあるが、いずれも取り組んだ結果をしっかりと検証していくことが肝要である。

## 総合的な自己評価

○学校教育目標の具現化にむけて、本年度は4つの重点目標を設定した。全職員が一人一人の児童に視点を当てた教育活動を展開していくことが大切であると捉え取り組んできたが、評価項目の取組については、概ね達成できたと評価している。  
 ○今後も児童の実態を踏まえた教育活動を創造し、次の課題についての取組を進めていく必要がある。  
 ・教職員の実践的指導力を更に向上させるための研修の充実  
 ・「確かな学力」の定着を図るため家庭と連携した学習習慣の育成  
 ・他者との関係の中で自尊感情を高め、好ましい人間関係を構築する

## 総合的な学校関係者評価

○本校の教育活動は全般にわたって良好であると思われる。学校自己評価も概ね適切である。また、改善の方策はやや具体性に欠ける部分もあるが、概ね適切であり、次年度の取組に期待したい。  
 ○学校が課題としている3つの課題を見ると、家庭、地域社会と連携して取組を進める必要がある内容のものがある。理解・協力を求めるための工夫をし、課題解決のための取組を効果的に進めてもらいたい。また、曾根小学校の卒業生はこういう生き方をするんだというビジョンを持つべき。  
 ○評価項目については、達成されているものも含め視点を定めること等も視野に入れることも検討しつつ、更なる検証が必要である。